2026
1

教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

第7回連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く
—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

特集

同朋の会推進講座
今、この時に、親鸞聖人に遇う

近江第26組 德乗寺 比叡谷 真 氏

「女性教化」の近・現代史を紐解く
―真宗大谷派の場合―

第7回

苦い思い出（その二）

大谷大学文学部歴史学科教授　福島栄寿（ふくしま えいじゅ）

前回、『家庭』の発見が、私の自己の形成に影響を与えたと記しました。今回は、そのことについてお話したいと思います。

厳しい父と私

『家庭』誌上の、女性教化用にアレンジされた「精神主義」の教説の存在を知った私は、『精神界』の読者対象が、実は、男性を前提としていたことに気が付き、愕然としました。前に書きましたが、私は、「精神主義」を提唱した浩々洞（こうこうどう）の清沢満之（きよざわまんし）を師として仰いだ暁烏敏（あけがらすはや）筆の名号を本尊とする仏壇で、勤行の最後に「絶対他力の大道」を読むような家庭環境で育ちました。父は、家父長的な態度で家族には接し、自他に厳しく、学校の教師然（ぜん）とした人でした。父親とはときに拳骨が飛ぶ、厳しい存在なのだと信じて疑わずに育ちました。母妹私は、父の機嫌を損ねないように立居振る舞いすることが日常でしたから、思春期の頃までは、父の価値観に何ら疑問を抱くこともありませんでした。真宗寺院の長男として戦前に生まれ育った父の家父長的な価値観は、少なからず私にも影響を与えていたと思われます。

苦い思い出―私を変えたエピソード

そのことに関連して、思い出したくないエピソードを、一つ紹介します。中学二年生の時、野球部だった私が、女子ソフトボール部とグラウンドを分けて練習をしていた時のことでした。ある野球部員の打球が女子ソフト部員の顔近くに当りました。すぐにソフト部監督の教員が駆けつけました。皆で心配そうにその女子生徒を見守るなか、「顔に当って傷がついたら大変やったけど、当らなくてよかった。女の子は特に将来、結婚……」と、私が場を和ますつもりで言った途端、その教員が、「誰や、今、言うたのは！」と、女子生徒を囲む私たちを睨みつけながら、厳しい口調で三度ほど問い質（ただ）しました。私は、まずいことを言ってしまったのだ、と直感しました（むろん、何が問題なのか、その当時の私は、理解できていなかったと思います）。しかし、その教員の声に対し、私は、正直に名のり出ることができませんでした。幸い、女子生徒は軽い打撲で済み、この出来事は、私の記憶から消えていたはずでした。

ところが、高校入学後の夏休み前の頃、中学の野球部員たちが同級生の家に集まった時のことでした。会話の流れは忘れましたが、あの時一緒に女子生徒を囲んでいた一人の同級生が、「お前、あの時、正直に答えへんかったやろ」と、私に突き付けるように言ったのでした。一瞬戸惑いつつも、その場は笑って誤魔化した私でした。あの出来事が、同級生に忘れ去られることなく、覚えられていたことに、ドキリとさせられました。

同級生のその一言をきっかけに、私は、自分の狡猾（ずる）さと不誠実さについて考えさせられることになるのです。

（次号〈続く〉）

今、この時に、親鸞聖人に遇う

報恩講に思う

近江第26組 徳乗寺
比叡谷 真

毎年十二月になると私がご縁をいただく報恩講は、自坊のみとなる。これまで寄せていただいた報恩講の法中溜※りでお話をうかがう中で、報恩講の日数あるいは座数を減らしたと聞くことが何度もあった。各家庭における仏事の簡素化ということがいわれて久しいが、お寺についても同じことがいえるかもしれないと感じる。

このような状況の中、今後を担うべき若い僧侶に、ただ自分たちで頑張ってくれというのは無責任ではないかと思う。最も大切な御仏事がはっきりしないまま、真宗の僧侶であることに意味を見出すことができるだろうか。

ずいぶん前、本山企画調整局の方に組門徒会研修会へ出講いただいた際、「家庭での仏事継承は難しいので、今回のような研修やお寺で、お内仏のことについて学びましょう」という趣旨のお話をされたことがあった。その時は素直にうなずきたくなかったが、核家族化など現今のご門徒の家庭環境を見ていると、首肯せざるをえないと思うようになった。同様に、お寺から離れて生まれ育つ寺院子弟も多い現状を思うと、報恩講をはじめとするお寺の儀式や法要の継承についても、それぞれのお寺にまかせるだけでなく、共同教化の枠組みの中で伝えることを考えていくべきではないかと思う。

報恩講などの年中諸法要は、各寺院教会でおのずから伝わっていくから、それ以外の部分を組や地区などの共同教化の枠組みで担うというのが、これまでの教化活動に関する考え方だったと受けとめている。だが、寺院教会の本当に基本となる部分、真宗僧侶の根幹をなす部分をいかにたしかめ、共有していくかということをそもそも考えないと、今後の宗門を展望することはできない。

それは、今、現にお寺の報恩講を担っている私たち自身が、報恩講を学び直し、報恩講に出あい直すことでもある。私たちに伝わっていないことが、私たちを飛び越えて後輩に伝わっていくことはない。私たちが報恩講をあらためて学び直し、その願いをたずね続けていく姿勢が、報恩講を回復し、お寺を回復することにつながっていくのではないか。また、そのための足掻きこそが、私たちの後輩に伝わっていくのだと思う。

もちろん、これまでの枠組みの意味がまったく失われたわけではないので、その枠組みの中でできることを続けていくことも大事にしたい。法中内でも、以前とかたちは変わり変則的なやり方にしてでも、伝統を守ろうとしておられるお寺もある。自坊でいうと、新型コロナ感染拡大の影響を受けて以来、法中の招待を取りやめたままなので、少しでも元に戻していきたいと考えている。

先輩方が私たちにまで伝えてくださった報恩講を大事に継承し、後の世代の方々に受け伝えていく場がひらかれるよう、自身の周りから取り組みを始めていきたい。

※法中溜り：法要に出仕する僧侶の控室。

特集

同朋の会推進講座

塾生会の歩み

長浜第12組　正業寺　橘　香洋

二〇〇二（平成十四）年六月、推進員養成講座を修了した第一期生二十九名を対象に、推進員としてさらに教法を聞信し、会員の親睦を図り相互協力し、人と人が出会える場を蘇らせるという目的で、おやじ塾の名称でスタートしました。

その後、二〇〇六（平成十八）年、推進員連絡協議会が発足し、塾生会と改称され、以来二十数年の月日が流れ、四回にわたる推進員養成講座（現在は同朋の会推進講座）が開かれ、修了者は、七十名を超えました。

その間長浜第十二組では、会員と住職スタッフ二十数名が、毎年一回の総会二回の研修会を計画して、事業展開してきました。また、前述した交流を深める意味で懇親会を開いて意見交流にも努めてきました。さらに毎年、組内を四つのブロック（醒ケ井・息郷・息長・坂田米原）に分け、ブロック研修会を行ってきました。

組内住職が講師を務め、座談をする中で、日頃の各お寺で行われている行事や内容を情報交換したり、疑問点や改善点を考えたり、住職と門徒が一体となって寺の運営を模索する機会を作ってきました。最近の塾生会研修では、本講座の講師をしていただいた先生を招聘しお話を聞いたり、長浜・五村別院を訪れ説明をいただいた後に清掃奉仕をしたり、他組で推進員をされている方にお話しいただいて、参考にしたりしました。

毎回多くの方に参加いただき、住職も推進員の皆さんも自分を見つめ直す良い時間を過ごさせていただいているとの前向きな意見をいただいています。ただ、コロナ禍以降、懇親の場を持つことが制限されたり、座談をする機会が減ったりしていることは少しばかり寂しいものです。

長浜別院での同朋の会推進講座の様子

また、一期・二期生の方が高齢になられ、亡くなられたり病床に伏されたりして参加いただけないようにもなりつつあります。お寺の現状は、随分と厳しい状況に置かれつつある今こそ、こうしたつながりを大切にしながら、手をしっかり結んで進んでいかなければならないと思っています。

「同朋の会推進講座」について

私たちの教団が、寺も門徒も近世の寺檀制度を残したまま、儀礼のみによってつながっているというあり方に対して、同朋教団としてその本来の相を回復することが目指されました。

それが一九六二（昭和三十七）年にはじまりました「同朋会運動」です。この信仰運動では、お寺や地域に「同朋の会」といわれる聞法のつどいをひらくことが進められました。それは、住職・坊守・寺族と門徒がともに真宗の教えを聞き、語り合うことで、お寺が聞法の道場になり、広く現代社会にひらかれていくためのつどいです。この運動を推進していく中核となる人を育成するために推進員教習が実施されました。

一九八八（昭和六十三）年には、宗門の基幹施策として「推進員養成講座」が開設されました。この講座は多くの門徒に推進員となって

近江第七組同朋の会推進員の活動について

近江第7組　眞念寺　深尾　隆太郎

湖東地区には近江第六組～近江第十一組までの六ヵ組がありますが、推進員の組織化がなされているのは、近江第六組、近江第七組、近江第十一組の三ヵ組だけです。私たちの近江第七組は組会からの助成金と会費三千円で運営しています。他の組織より多くの会費をいただいていますので、私が推進員になってから、組会と門徒会の共同の研修会だけでは物足りないので、独自の取り組みが必要であると思い研修会を開催しています。

近江第7組同朋の会推進講座

近江第七組の同朋の会教導である正明寺住職の杉本智海師に相談し、研修会をさせていただく事が出来るようになりました。内容をどのようにするか毎回違うテーマでは大変ですので、東本願寺出版から出されている宮城顕師著『和讃に学ぶ』をテキストに研修会を発足しました。研修会は七、九、十、十二、四月の年五回です。十月は組内の報恩講が始まる月でもありますので、毎年、報恩講のお勤めと和讃「五十六億七千万」を教えていただいています。

なぜ「和讃に学ぶ」契機となったのでしょうか。正信偈のあと、六首引きの和讃を称えています。「弥陀成仏のこのかたは……」と何の和讃なのかも判らずに称えています。もちろん意味内容も歓びと報恩の心もなく、称えていますので判るはずがありません。学ばせていただくのは、自分の事として称え、念仏が歓べる私になるためです。

和讃は、親鸞聖人が自分の遇いえたよき人々、聞きえた教法を多くの人々と共に、声をそろえて讃嘆しようという願いからつくられ、七五調になっています。よく『三帖和讃』と聞きますが、浄土、高僧、正像末和讃の事で、「弥陀仏のこのかたは……」は浄土和讃の最初に出て来る六首の和讃を称えているのだそうです。和讃の前に冠頭和讃が二首あり、「弥陀の名号となえつつ／信心まことにうるひとは……」は、どのお勤めの時に勤められるのか、今後注意して聴聞します。この二首の和讃は念仏する者の中に、本願を信じて称える者と、疑いながら称える者とがあることを示して、信を勧め、疑いを戒めるためつくられた和讃とのこと。

和讃のお言葉がどのような意味をもち、私にとってどのような教えなのか、どのように味わっていくのかの視点にたっての聴聞が必要と教えていただいています。また、自分の生活を照らし出して下さる言葉に、忘れようと思っても忘れられない言葉に出遇うことです。

今後も多くの皆さんと聴聞、研修会が開催できることを祈っています。

いただくため、全国の組が主体となり行われている連続講座です。この講座は前期教習と後期教習で構成され、前期教習は地元で、そして後期教習は真宗本廟・同朋会館を会場に、本廟奉仕として実施されます。身近な人を亡くされた方やお寺の役職の方、あるいはこれまで葬儀や法事以外にお寺と関わりのなかった門徒が仏法にであう大切なご縁となってきました。

二〇一七（平成二十九）年からは、同朋の会の誕生と再生を期するという目的を明確にするため、講座名称を「同朋の会推進講座」と改称して歩んでいます。

（『真宗の教えと宗門の歩み』東本願寺出版　一四八・一四九頁）

同朋の会推進講座の様子

男と女の平等って、なに？

私のなぜ？ あなたのなぜ？

青少幼年部会 山城第2組 泉龍寺 泉 阿弥華

最近、「できる人が できる時に できることを」という言葉を耳にします。〝誰もがそれぞれの立場や背景があるなかでその場にのぞんでいるお互い様の関係〟だと私は受けとっています。

以前、ある会で役員をお願いされました。そこでは男女によって1年目の役職が異なるため夫婦どちらが引き受けるかによって担当が違うそうです。なぜ異なるのかお尋ねしたところお返事はいただきましたが、また翌年、その翌年とお声がけをいただいた時も同じ質問をしました。今、私は女性1年目の役職で引き受けています。役職に不満があるのではなく、性別関係なくそれぞれの立場や背景、得意不得意があるだろうに、なぜ性別で違うのか。性別によって担当内容はどう違うのか、なぜ違うのか、それが納得できる理由なのか様子を伺っているところですが、このモヤモヤしている気持ちは伝えています。

これまでは、違和感や疑問があっても「そういうものか」と思って終わっていました。しかし、教区の青少幼年部会でこのコラムについて感じたことをお互い聞きあう時間や、教区で出あう方々から「これどう思う？」と問われる機会を通し、考える場・考えないといけない場がとても多くなりました。それは男女の分担に限らず、少しでも感じた「なぜ？」をそのままにして終わらせず「私はこう思う、あなたはどう思う？」とお互い聞きあうことの大切さを感じることにつながっています。私のなぜ？ あなたのなぜ？ を聞きあいたいです。

「課題」を見る目をいただく

出版部会 近江第8組 上宮寺 早川 直子

仏典には男女の性が入れ替わる例が多数見られます。その一つが『維摩経』「観衆生品」における、天女と、釈尊の十大弟子の一人で智慧第一と称される舎利弗の話です。高徳の天女に対し、舎利弗が「なぜ女身を転じないのか」と問うと、天女は舎利弗を天女の姿に、そして自分を舎利弗の姿に変えてしまいます。全てのものごとは「空」すなわち因や縁で仮に成り立つ存在である。本来的には男女の区別はないのだ、と天女は説きます。大乗経典である『維摩経』は、分別を越え、苦悩する一切の命を「衆生」ととらえるという立場から、男女の無差別を説くのです。

ただ、仏典で無差別が説かれても、現実には差別はなくなっていません。社会的な性的役割分担の歴史のもとでは、仏典の教えはほとんど無力にも思えます。しかし、この天女と舎利弗の話が経典に収められているのは、男女の間に差別があることを、仏法において課題とした人々が存在したからではないでしょうか。

以前、「性的マイノリティの人など身近にいないから配慮する必要を感じられない」と言う方がおられました。この例に限らず、自分にとって課題でないことは見えづらく、存在しないように思いがちです。そうであっても、如来は「いろもなし、かたちもましまさず」（『真宗聖典 第二版』東本願寺出版、六七九頁）と教えられる身として、私たちの上にはたらく社会的な制約や抑圧について心を向け、現れる課題を仏法に照らして考えていくことが大切だと思っています。

参考文献
『性なる仏教』大谷由香編 勉誠社
『改訂 大乗の仏道』東本願寺出版

京都教区 1月の教区事業

14日（水）	9：30～15：30	教区坊守会 真宗基礎講座（Zoom 併用）	しんらん交流館1階 ABC 会議室
16日（金）	13：00～16：30	同朋会議（Zoom 併用）	しんらん交流館2階 大谷ホール
16日（金）	13：00～15：00	教区准堂衆会 女声声明講習会	教区会館 2 階 大講堂
16日（金）	17：30～	新年互礼会	京都 東急ホテル
20日（火）・21日（水）	終日	研修講座部会 伝道研修会	教区会館
26日（月）	13：00～16：30	教区部落差別問題に学ぶ同朋協議会	教区会館 2 階 大講堂

京都教区 1月の教区諸会議

13日（火）	13：30～16：30	財政委員会 専門部会（旧京都教区対象）	教区会館 2 階 大講堂
14日（水）	13：30～16：30	教化本部 企画室	教区会館 2 階 大講堂
19日（月）	13：30～16：30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議（Zoom）

教務所からのお知らせ

得度受式者

2025年11月7日

・山城第3組 真西寺 久連松 良温

住職任命者

2025年10月28日

・近江第1組 立専寺 石川 真也

長浜教務支所の現金取扱い日について

長浜教務支所の現金取り扱い日は、左記のとおりです。

1月19日（月）
2月9日（月） 2月24日（火）
3月9日（月） 3月23日（月）
4月6日（月） 4月20日（月）
5月11日（月） 5月25日（月）
6月8日（月） 6月22日（月）

年末年始休日のお知らせ

2025年12月27日（土）から
2026年1月5日（月）まで

年末・年始休日のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

教務支所閉所のお知らせ

2026年1月16日（金）正午から

新年互礼会のため、教務支所を閉所いたします。

教務所・教務支所閉所のお知らせ

2026年2月12日（木）から
2月13日（金）まで

所員研修のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

【緊急連絡先：080-6121-0737】

『過去帳』の閲覧について

寺院の『過去帳』に記載されている内容は、ご門徒の個人情報であり、その漏えいは人権侵害となりますので、『過去帳』の管理及び保管については、くれぐれもご注意ください。

また、宗派が取り組んでおります「身元調査お断り・過去帳閲覧禁止運動」について、再確認いただきご理解いただますようお願いいたします。（詳細は『真宗』2025年9月号22頁を参照ください）

京都教区新年互礼会の開催について

2026年1月16日（金）午後5時30分から、教区内寺族及び門徒を対象に新年互礼会を開催します。詳細は、同封いたしております案内を参照いただきお誘いあわせのうえ、お申込みいただきますようお願いいたします。

真宗教団連合 滋賀県支部主催「真宗のつどい」

2026年2月22日（日）に、能登川コミュニティセンター（滋賀県東近江市躰光寺町262番地（JR能登川駅西口より徒歩10分）を会場に開催します。講師は田代俊孝師。

なお、講演に先立ち合唱団「花あかり」（真宗大谷派）と「響流（こうる）」（浄土真宗本願寺派）による、仏教讃歌が演奏されます。

真宗のつどい

2026年2月22日（日）

日 程

13：30 開会式（受付12：30～）
真宗宗歌、和訳正信偈、支部長挨拶、木辺派門主祝辞
14：00 仏教讃歌（本願寺派「響流」、真宗大谷派「花あかり」）
14：40 記念講演
講師：田代 俊孝 師
講題：「悲しみからの仏教入門-いのちを考える-」
15：50 閉会式 事務長挨拶、恩徳讃

田代 俊孝（たしろ しゅんこう）師
現職 仁愛大学学長・同朋大学名誉教授、真宗大谷派行順寺住職
経歴 1952年滋賀県生まれ。大谷大学大学院博士後期課程。カリフォルニア州立大学客員研究員、同朋大学教授、名古屋大学医学部兼任講師（非常勤）などを経て現職。博士（文学）。専門は真宗学・生命倫理学。ビハーラの提唱者の一人でその理論的リーダー。
著書「悲死妙讃歌-教相判釈と真宗開顕」（東本願寺出版）、「広い世界を求めて-聖教断否のとを開いた『歎異抄』（毎日新聞社）、「親鸞の生と死」、「ひと目でビハーラ運動-死生学入門」（法藏館）他多数

会場 能登川コミュニティセンター ホール
〒521-1205 東近江市躰光寺町262番地（JR能登川駅西口より徒歩10分）
駐車場 コミュニティセンター内の駐車場は、約300台が駐車可能です
できる限り公共交通機関のご利用をお願いいたします

案内図

お問い合わせ：京都教務所（真宗大谷派）
住所：〒600-8164
京都市下京区上柳町201番地
電話：075-351-5260

主催：真宗教団連合 滋賀県支部

依頼 「令和六年能登半島地震」災害に対する救援金の勧募について

2024年1月1日に発生した能登半島地震に対して、これまで、教区内のみなさまから被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS（X）でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X（旧ツイッター）

京都教区別院１月の行事予定

1日（木）	0:30～	長浜	修正会	長浜別院
1日（木）	8:00～ 9:00	赤野井	修正会 法話 中川 眞 師（別院輪番）	赤野井別院
1日（木）	9:00～	岡崎	修正会 法話 近藤 悠 師（別院輪番）	岡崎別院
1日（木）	9:00～10:00	伏見	修正会	伏見別院
1日（木）	14:00～	五村	修正会	五村別院
1日（木）	14:00～15:00	大津	修正会	大津別院
1日（木）	14:00～16:00	山科	修正会	山科別院
5日（月）	12:00～13:00	赤野井	定例法話（教如上人御命日逮夜）法話 中川 眞 師（別院輪番）	赤野井別院
10日（土）	14:00～16:30	伏見	伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
13日（火）	10:00～11:30	岡崎	三日講「歎異抄を読む」法話 近藤 悠 師（別院輪番）	岡崎別院
13日（火）	13:00～15:30	山科	同朋の会 報恩講 法話 磯野 憲嗣 師（教区駐在教導）	山科別院
15日（木）	14:00～15:30	山科	定例法話 法話 狐野 やよい 師（三重教区 西恩寺）	山科別院
15日（木）	19:00～21:00	伏見	親鸞教室 法話 藤原 正寿 師（大谷大学准教授）	伏見別院
22日（木）	14:00～16:00	大津	湖南地区共催 親鸞講座 法話 黒川 了見 師（近江第2組 浄泉寺）法話 七里 映子 師（近江第5組 淨現寺）	大津別院
23日（金）	10:00～11:30	岡崎	三日講「蓮如上人を訪ねて」法話 別院列座	岡崎別院
27日（火）	12:00～13:00	赤野井	定例法話（宗祖親鸞聖人御命日逮夜）法話 中川 眞 師（別院輪番）	赤野井別院
27日（火）	14:00～16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 宮戸 弘 師（京都教務所長兼別院輪番）	伏見別院

今月のことば

ほんの少しの勇気を小さなポケットに入れて行こうじゃないか

『真宗児童聖典』（東本願寺出版）巻頭詩より

編集後記

年の始めを迎え、また新たな一年が始まる。

昨年を振り返ってみると、あっという間に過ぎていった気がする。「正月を迎えたばっかりやん！」と思いながら、子どもの卒業、入学の春が過ぎ、猛暑の夏が過ぎ、自坊の行事が続く秋が過ぎ、気付けば冬が来て、年を越している。

年々、一年が経つのを早く感じるのだが、これは平穏無事に過ごせている証拠でもある。そのことに感謝して、一日一日を大切にしていきたい。

南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏

（出版部会　井上（いのうえ）　至（いたる））

教区だより 表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします！

テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。

詳しくは京都教務所まで。お待ちしています！

京都教区 公式SNSあります

公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです！ぜひご登録をお願いします！

LINE

LINE公式アカウント
2025年12月3日現在
登録者数261名
LINE ID @441foywe

Facebook、Instagram
もちろんあります！

Facebook　Instagram

【表紙の写真】「静かに響く慶讃の声」（幡谷淳弥／石東組顕正寺）

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第 428 号　真宗大谷派 京都教区 Webサイト https://www.k-kyoku.net ▶
［発行人］宮戸弘（真宗大谷派京都教務所長）［発行所］真宗大谷派京都教務所 ［発行日］2026（令和８）年１月１日
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp